

ぽぽデイだより NO.121 令和5年2月号

社会福祉法人 ほっとスマイル
ぽぽデイ名塩駅前 669-1133 西宮市東山台 1-1(1階) TEL0797-62-1165

施設長より

ぽぽデイに力強い助っ人が登場しています。元特別支援学校教員の津倉さん。東山ぽぽこども園に勤務しながら、必要な時に応援に来てもらっています。東山ぽぽこども園の職員ながら気分はまだ「来ていただく」という感じなので敬称付のご紹介。津倉さんは定年後保育士資格を取得されて、こども園の子どもたちを見守ってくださっています。温かくもきびきびした雰囲気、とても信頼感のある方です。何度かぽぽデイに応援にきていただいています。ぽぽデイでの気づき(特に改善点)についてお尋ねしました。すると、「改善点?全くない。今のままで十分。」とのこと。「アドバイスと言われても重箱の隅をつつくようなことしかない。それよりも大事なことは、全員が子どもに寄り添っていること。子どものことを一生懸命、真剣に考えていること。それができている。」との感想をいただきました。そう。毎日毎日、今日のあの子、あの子のこの場面、と話が尽きない職員群です。改めて、私たちの強みに気づかされたことでした。とはいえ、重箱の隅も気になります。長年のご経験から、TEACCH も専門家です。今度はゆっくり重箱の隅のお話も伺います。

さて、今年度もあと2か月。子どもさんの成長や環境の変化から、新年度にはぽぽデイのご利用状況も変わると思います。2月中にご利用意向のアンケートを配布しますので、ご協力よろしくお願いたします。なお、再度のお願いですが、どうぞ、子どもさんの自己決定を尊重していただき、「行きたくない」という場合は再契約を見合わせてくださいますようお願いいたします。「来たくなかった」という気持ちに寄り添うのは、お互いに苦しいです。

最後に、保護者会の代わりに動画配信を予告しながらお待たせしています。当初は Google ドライブで共有することを考えていましたが、ダウンロードできてしまうという問題が露見しダウンロードできない仕組みを模索中。しかも無料で。何しろ、今年度も赤字決算間違いなしです。早急に解決したいと思いますので、今しばらくお許してください。

児童発達支援 いちご組

お正月あそびの一場面です。うどんの空容器を重ねた物を『鏡もち』に見立てた、5段の鏡もち積み重ねゲームを作り、みんなであそびました。1番上になる餅には、みかんシャーベットの空容器がついていて、その餅を持った人が最後に積む4番目の人です。①1つずつ、②順番に、③バランスを見て倒れないように、④みんなで完成…という要素を楽しみながらのゲームです。4番目の役を、する時には、真剣なまなざしです。そーっと積んで、みんなで「1, 2, 3ーっ」と数えて、「ヤッター」と達成できたことを喜びました。簡単なルール、友だちや大人を応援すること、そしてドキドキしながら楽しめた時間になりました。

1人ひとりが自分のあるキャラクターに見立て、ごっこあそびに夢中になり、大人も一緒にあそび込みます。その中で、「僕ハ、〇〇」で、友だちは「△△ダカラ、ヤツツケヨウト、オモッタ」というイメージの違いで、小さなぶつかり合いになることがあります。お互いの思いを大人が仲立ちとなって確認し、友だちと関わ

り合う中で、自分の気持ちを相手に伝える機会となり、一緒に経験に繋がっていくことができればと思います。

まだまだ寒い日が続きますが、体調を崩さないように気をつけながら、制作あそび、運動あそび、ごっこあそびを楽しんでいきたいと思います。

放課後等デイサービス

最近、人との関わりをどんどん広げ、成長しているお子さんが何人もいます。一人で遊ぶことが好きで、お友達が近くに遊びにくると、自分の遊びを邪魔されてしまうのではないかと不安になり、相手を拒否する行動をとってしまったり、お友達に声かけられずうろろしてしまうお子さんや相手が困惑してしまう言葉をかけてしまうなど、困った気持ちをいろいろな表現でします。そんなお子さんの困り感も、「楽しい」を通じて人との関わり方や気持ちに変化し、「みんなと一緒に鬼ごっこがしたい」と職員に伝えてくれたり、「〇〇くん、一緒にこれして遊びませんか」と大人が見守る横でお友達に声をかける姿が見られるようになってきました。また、お友達と仲良くなったことで、自分のこだわりの殻を破り、「お友達と一緒になら自分のやったことないことでも楽しんでみよう」とするお子さんの姿もありました。今後も「楽しい」という気持ちを大切にしながらお子さんの成長へとつながるようにしていきたいと思います。

スタッフの一言

久しぶりに大きなジャングルジムのある公園へ行って、みんなで鬼ごっこをしてきました。大人たちはケガをしないかはらはらしているのですが、子供たちは怖がることもなく上手に体を使って登ったり、降りたり、中には鬼の様子をうかがいながら域をひそめて隠れたり、よくこんな隙間を見つけるなあと関心しつつ、逃げ方にも個性がよく見えました。もうすぐ鬼くるよ！〇〇さんがオコだよ！とコミュニケーションを取りながら元気に走り回る子供たちに発見と成長を感じた時間になりました。

尾川

6年生になる息子が、野球に目覚めました。きっかけは『野球ゲーム』です。今では、週末に1時間程度のキャッチボールが予定に加わりました。運動経験が、ほぼないのですが、「中学生になったら野球部入ってみようかな…」と。彼の側にグローブを置いて12年…。やっとその時がきて、私の夢が実現し、密かに喜ぶのでした。

井野口